

中濃農林事務所の普及活動状況 令和4年12月25日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■新規就農者・研修生 JAめぐみの集合研修

JAめぐみの管内の研修拠点等の研修生は、主に実技中心の実践研修をしており、それを補完する講義として集合研修が開催されている。

12月は毎週金曜日午前に開催され、「植物整理」「鳥獣害対策」「ハウス基礎知識・被覆資材」「青果物流通」等の講義が行われ、農業普及課では開催を支援した。「鳥獣害対策」では、中濃農林事務所鳥獣被害対策専門指導員より現地での取り組みなどが講義された。

研修生や新規就農者等の受講生はオンライン参加者も含めて毎回20名程度で、熱心にメモを取るなど意欲的に取り組んでいる。

農業普及課では、新規就農者の育成と営農定着に向けて、集合研修や新規就農者への重点巡回指導などに取り組んでいく。(地域支援係)



【鳥獣害の講義】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■水稲(採種) ハツシモ岐阜SL目揃会

水稲種子「ハツシモ岐阜SL」の目揃会が12月14日、JAめぐみの美濃種子センターで開催され、県内産地の担当者や県関係者等が出席した。

目揃会では、粳の品質確認のため、各産地の粗粳を手篩いにて精選し、整粒歩合と歩留まりを計測した。また、高品質な種子を生産に向けた意見交換を行った。

農業普及課では、水稲優良種子の確保のため、生産者へ栽培管理を指導するとともに、適正なほ場審査及び生産物審査を実施していく。

(地域支援係)



【品質確認】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■円空さといも 簡易貯蔵方法検討

中濃地域で広く栽培されている円空さといもは、ほ場に高さ1m程度の芋山を作り、稲わら、土、ビニールを被せて防寒対策を行って貯蔵することで、3月までの長期にわたり市場等へ出荷している。

里芋は寒さに弱いため、貯蔵中の防寒対策が必須であるが、生産者から「稲わらが手に入らない」「芋山を作るのが大変」などの意見があり、貯蔵方法の省力化が求められている。

12月9日、JAめぐみの実証圃場において、JA担当者とともに粳殻や農業用ビニールなどを使って、簡易な貯蔵区を5つ設置した。今後、地温の測定や春先の掘り取りを行い、さといもの品質を確認する予定である。

農業普及課では、機械化体系や貯蔵方法の省力化による産地の発展に向け、継続して取り組んでいく。(地域支援係)



【作業の様子】

■キウイフルーツ 環境にやさしい栽培技術の実証

J Aめぐみのほらどキウイフルーツ生産部会では、みどりの食料システム戦略推進交付金を活用して、環境にやさしい栽培技術の実証を進めている。

従来の有機質肥料と化学肥料を組み合わせた施肥体系から、有機質肥料のみによる施肥体系を実証区として設置した。12/20 には、部会長やJ A担当者とともに、実証区及び比較対照とする慣行区に有機質肥料（菜種粕ペレット）を散布した。

農業普及課では、生育・収量や果実糖度への影響を確認しながら、施肥時期、施用量の調整を行い、有機質肥料による施肥体系の確立に向けた支援を行っていく。
(地域支援係)



【施肥の様子】